

稼働時に実現を目指す内容

2021.4

2022.10

2024.4

整合性の実現

- **受付領域の共同利用**※1
 - ー オンライン請求システム
 - ー 形式チェック
 - ー 告示・通知に基づくチェック
- **審査領域の業務要件の整合性の確保**
 - ー 支払基金と統合的なコンピュータチェックルール
 (外付けシステムによるコンピュータチェックの廃止)
 - ー 支払基金と統合的な自動レポート

**国保総合システム更改の
 設計・開発・試験**

※国保総合システム全体をクラウド化

体制

- ・国保中央会
- ・デジタル庁との連携

可能な機能は2024年導入に向けた共同開発を進めることも検討

効率性の実現

■ **審査・支払領域**※2の共同利用

可能な機能から医療機関・保険者の利用を開放

■ **共同利用機能とその他の機能・
 システムの疎結合化**※3

共同利用機能の共同開発※4

- (デジタル庁との連携)
- ①実証的な開発・再開発
 - ②段階的な機能導入

インターフェース定義

その他の機能・システムのインターフェース改修

※1 受付領域はシステム集約

※2 コンピュータチェックのロジックとマスタ、振分チェックのAIエンジン、自動レポート、基盤、ネットワーク、セキュリティ対策等

※3 「疎結合」とはコンピュータシステムで、異なる二つの構成要素の結びつきが弱い状態。各要素の独立性が高く、一方に障害が生じても他方に影響を与えることが少ない。

※4 「重要な意思決定に関する基金・国保の意見調整の仕組み」と「支払基金と国保の実効的な合同実務部隊」を構築する

- 本日のご議論の内容を踏まえて、1月以降も、厚生労働省及び国保中央会、支払基金の実務者を中心に、専門家の助言もいただきながら、議論の方向性に対する技術的な実現可能性の精査を行う予定。
- その上で、年度末に向けて、本検討会において、最終的な工程表のとりまとめをお願いしたい。